

2021年度 第2回理事会議事録

日時：2021年5月26日(金)17:00－19:00

場所：オンライン開催

出席理事：田口，田辺，田村，山田，原田，鳥海，鵜飼，山下，永井，土谷，野々部，諸星，西松，森口，奥田，古川，田中

出席監事：細田，松林

庶務幹事：伊藤真(書記)

事務局：内山

【会長挨拶】

1. 2021年度のOR学会運営に関する会長心構え

- (1) 田口会長より，OR学会の新しいホームページを積極的に運用したい旨，呼びかけがあった。旧サイトの停止を延期する可能性がある旨，補足があった。学会内外への情報発信を目的とする旨，ホームページの趣旨の説明があった。将来，会員管理システムとの連動により，資金管理を簡素化したい旨，話があった。
- (2) 田口会長より，機関誌の電子ジャーナル化について説明があった。冊子体の停止は，数百万の経費削減になる旨，補足があった。今後，学会員への冊子体の停止の説明における具体的な進め方について詰めたい旨，話があった。
- (3) 学術論文の数とカバー範囲の拡大に努めたい旨，話があった。これについては，(1)と(2)の後に，取り組みたい旨，説明があった。

【審議事項】

2. 前回議事録確認

原田庶務理事より，前回議事録の確認があり，承認された。

3. 入会・シニア・特別会員承認の件

原田庶務理事より年々会員数が減少しているが，資料3については横ばいである旨，説明があった。田口会長より，学生会員から正会員への移動が例年よりも多い旨，述べられ，内山事務局長より，卒業による退会が50－60名あり，そのうちの11名が正会員として入会した旨，説明があった。

4. 2022-2023年度会長候補者選考委員会設置の件

原田庶務理事より，例年通りの方法で進めたい旨，確認があり，承認された。田口会長が，候補者が辞退または会長と同所属である場合は，候補者を遡って選出する旨，説明があった。土谷編集理事より，候補者の氏名の記載が無いため，決議が曖昧であることに対して指摘があった。内山事務局長より，辞退する候補者がいることから，個人を特定しない表現にしている旨，説明があった。

5. 学会役員選挙電子投票システム導入の件

原田庶務理事より，経費と事務員の負担量削減のため，e投票を使用したい旨，説明があった。e投票を使用している主な団体について情報共有があった。田口会長より，メールアドレスを知ら

ないで使用できないことと、メールアドレスの事前調査が必要な旨、指摘があった。原田庶務理事より、e投票と郵送とのハイブリッドでやる旨、回答があった。鳥海庶務理事より、正会員と名誉会員が対象であり、事務局が既にメールアドレスを1,500件程把握している旨、説明があった。鳥海庶務理事より、投票者が匿名化されているため、郵送とのハイブリッドを実施する際には2重投票にならないよう、厳密な運用が必要であるとの指摘があり、今後検討を重ねる必要性が述べられた。

6. メールサーバーの移行の件

鳥海庶務理事より、現在契約しているメールサーバー(Webサーバーと兼用)が2021年7月末に契約終了となるのに伴い、新しいメールサーバーとしてさくらインターネット社のさくらのメールボックスを契約する旨、説明があった。また、移行のタイミングでメールアドレスのドメインも変更される旨、説明があった。メールサーバーの設定作業について、はじめのうちは鳥海庶務理事が行う旨、説明があった。

7. 2021年度秋季表彰(その1)学会賞推薦の件

田村表彰委員長より、学会賞推薦について説明があり、承認された。土谷編集理事より、来嶋先生の推薦理由文中の「新たなパラダイムをもたらす研究」の表現について、学会として提示するにはやや大袈裟であるのではという指摘があった。田村表彰委員長より、本文については、学会誌に推薦理由を掲載するまでに再検討する旨、述べられた。田口会長より、2年連続で事例研究賞の推薦が無いことについて指摘があり、対象となる研究を幅広く探してほしいという要望が述べられた。

8. 2021年度対外委員の件

西松渉外理事より、2021年度対外委員について説明があった。

9. 2021年度委員及び幹事委嘱の件(論文誌編集委員会)

土谷編集理事より、委員及び幹事委嘱について説明があった。委員及び幹事は4年－6年で交代している旨、補足があった。内山事務局長より、土中先生の所属を名古屋大学へ変更する旨、指摘があった。森口広報理事より、増山先生の所属を東京都立大学へ変更する旨、指摘があった。

10. 2021年春季研究発表会・シンポジウム決算の件

山下研究理事より、本発表会とシンポジウムにおいて、会場費と懇親会と物品費が不要であったため、決算が黒字になった旨、説明があった。

11. 2022年春季研究発表会・シンポジウム現地開催検討の件

山下研究理事より、新型コロナウイルス感染症と予算の関係から、オンラインか現地開催か現時点では決めかねている旨、説明があった。現地開催の第一候補地であるGメッセ群馬の会場費(最低150万)が報告されたが、田口会長より、直近の学会財政事情を考慮すると、会場費が高いことと、それに伴う参加費の上昇と参加者数の減少に対する指摘があった。田口会長より安い会場への検討について、意見があった。田村表彰委員長より、自治体の補助金を申請する案があった。今後、山下研究理事が自治体の補助金額等を調べる旨、決定した。新型コロナウイルス感染症によるオンラインまたは現地開催については、大会に最も近い日程の理事会で改めて議論する

旨、決定した。山下研究理事より、会場へのアクセスの問題があるが、杉山実行委員長に会場として群馬大学を提案する旨、意見があがった。諸星会計理事より、赤字は避けるよう忠告があった。土谷編集理事より、現地開催の判断として、提案があったワクチン接種について、大学生の若い年齢層のワクチン接種の必要性については、議論の余地がある旨の指摘(若年層に関してはワクチン接種自体の危険性の方が高い懸念)があった。

12. 2021年度第2回ORセミナー実施要項及び予算の件

永井普及理事より、2021年度第2回ORセミナー実施要領及び予算について説明があった。広告には、新しいホームページを載せる旨、補足があった。参加費はテキスト代と送料を含み2,000円増やした旨、説明があった。

【報告事項】

13. 新ホームページ、ML、メールサーバー、電子課金について

田辺広報委員長より、新ホームページ、ML、メールサーバー、電子課金について画面を共有しながら報告があった。田村表彰委員長より、新ホームページの英語化について質問があった。田辺広報委員長より、現時点では英語化の予定は無いが、要望があれば、英語化していく旨、回答があった。田村表彰委員長より、文献賞と論文賞の英語表記について、表彰委員会で議論している旨、報告があった。田口会長より、本システムの理事会以外への発信方法について今後、検討していく必要がある旨、意見があった。田辺広報委員長より、試用時に気づいた点は広報委員会へ問い合わせる旨、呼びかけがあった。

14. 2021年度収支予算の経常収益減収の件

諸星会計理事より、日本GIF研究財団との委託研究契約終了による間接経費の15万円減、FMES事務局経費50万円の受取辞退と、テレワーク定着促進助成金50万円の申請が通らなかった旨、報告があった。

15. 事務局体制について

原田庶務理事より、事務局体制について報告があった。田口会長より、資料には個人名の記述は止めて、退職理由に関する記述も簡素化する(一身上の都合とする)方が適当である旨、指摘があり、その記載に変更することが決定した。

16. 次回理事会議事の件

原田庶務理事より、次回理事会議事について報告があった。土谷編集理事より、2021年7月19日は祝日ではないかという指摘があった。内山事務局長より、オリンピックとの関係で2021年7月19日は平日となった旨、説明があった。

その他

田口会長より、冊子体を廃止するお知らせを機関誌に載せたいが、理事会での承認では機関誌の編集に間に合わない旨、相談があった。永井普及理事より、メール審議とする案があがった。山田副会長より、メール審議とすることを理事会で決めて、後はメール審議にすれば良いという提案があり、冊子体を廃止するお知らせを機関誌に載せる前に、メール審議する旨、決定した。

土谷編集理事より、機関誌の表紙の「オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学」の「経営の科学」部分の再考と、機関誌と和文論文誌の一体化について提案があった。田口会長より、機関誌編集委員会と論文誌編集委員会で話し合う必要性が述べられた。土谷編集理事より、論文誌にインパクトファクターが付いていないことが、投稿数が少ない原因ではないか、との指摘があった。田口会長より、インパクトファクターが付いていない論文誌でも投稿数が多い学会がある旨、回答があった。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

2021年度 第2回理事会

議事録署名人

議長（会長） 代表理事 田口 東

（副会長） 代表理事 田辺 隆人

（副会長） 代表理事 田村 明久

（副会長） 代表理事 山田 昭雄

監 事 五十嵐 順子

監 事 松林 伸生